

発問を工夫しよう

道徳の授業の教材研究をするとき、発問の吟味はたいへん重要なポイントです。発問によって、授業の流れが大きく左右されるからです。発問とは子供の思考を促し、授業の核心に迫るために、教師が発する問いです。もちろん子供の思考は、道徳的なものの考え方や道徳的判断にかかわるものです。発問の大切さをもう一度見直し、よりよい発問で授業を磨いていきましょう。

道徳における発問には次のような種類があります

1. 中心発問…授業の山場における発問。ねらいに迫る発問。
2. 基本発問…学習指導過程の各過程における欠くことのできない発問。通常3～4の発問がある。
3. 補助発問…中心発問や基本発問を補助する発問。考えを吟味させる「切り返し発問」や「対話を促す発問」などがある。

資料の活用の仕方によって4つの型があります

資料を共感的に活用するための発問例

1. 気持ちや考えを問う
 - ・ ○○はどんな気持ちだったでしょう。
 - ・ ～している○○の心の中はどんなでしょう。
 - ・ 迷っている～の気持ちはどんなでしょう。
2. 話している言葉を想像させる
 - ・ ○○はどんなひとり言を言ったでしょう。

資料を感動的に活用するための発問例

1. 感動したことを問う
 - ・ ○○を読んで心を動かされたところはどこですか。
 - ・ どんなところが心に残りましたか。
2. 感動したわけや根拠を問う
 - ・ 自分もみんなも、どうしてこのように感動したのだろうか。

資料を批判的に活用するための発問例

1. 見解や各自の考えを問う
 - ・ ～したことをどう思いますか。
 - ・ ○○の考えや行動についてどう思いますか。
2. 各自の考えとそのわけを問う
 - ・ ～したことをどう思いますか。
 - ・ また、なぜそう思いますか。
3. 具体的な方向を問う発問
 - ・ ○○はどうすればよかったですか。

資料を範例的に活用するための発問例

1. 原因・理由・根拠などを問う
 - ・ ～したのはどんな気持ちからでしょう。
2. 学んだことを問う
 - ・ この○○からどんなことを考えたり学んだりしましたか。

発問は次のことに留意しましょう

- ① 子供の意識の流れに沿って一貫性を持つようにしましょう。
- ② 子供の発達段階を考慮しましょう。
- ③ 発問を精選して、子供が考える時間を十分確保しましょう。

